

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2173100351		
法人名	医療法人 純真会		
事業所名	ほほえみグループホーム (1階)		
所在地	可児市下恵土野林3005番地		
自己評価作成日	平成24年8月8日	評価結果市町村受理日	平成24年10月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2173100351-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2173100351-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成24年8月31日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者の高齢化に伴う体調管理において 細心の注意が必要と考えている。母体が医療施設のため 常に訪看との連絡を密にし 医師への連絡、そして指示というふうに連携を取りあっている。受診が必要な時は、病院への紹介、そして 病院との連携により 早期の退院へとつなげている。また、PTやOTの指導も頂きながら、利用者が安心した生活を送っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所が、これまで積み上げてきた、高齢者サービスの実績を地域住民に積極的に還元している。「安心介護パートナー事業」を市の委託で展開し、地域との支え合える関係を築いている。職員は、利用者的高齢化、重度化が進む中で、最期までその人らしい穏かに過ごせるように、細やかな気配りと笑顔で対応している。運営母体が医療法人であり、近くに診療所を開設している事も、利用者と家族の安心につながっている。また、介護計画や運営推進会議の内容に関しても、適切な検証を行うことで、よりよいサービスを提供し、日々安心して自分らしい生活が送れるように支援している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価票(1階)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえ 月1回のケア会議にて話し合いを持つ中で 一人一人の情報を交換しながら 利用者の思いをケアに活かすことができるよう努力している	住み慣れた地域の中で、ほほえみのある穏やかな暮らしを支えるため、「寄り添う介護・気づきの介護・考える介護」を、全職員が心に刻み、実践している。利用者の思いに寄り添い、穏やかな暮らしを支えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常生活の中での散歩・買い物など 出かける機会もあり 地域の方との挨拶を交わしたり 会話を楽しんでいる。また地域の理容院・コンビニなど希望に応じて出かけている	ホーム主催の夏祭りや秋祭りを、地域住民に案内し、盛大に行っている。定期的な園児の来訪もあり、小・中学生の職場体験を受け入れている。地域の商店とは、買い物を通じ、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校の総合学習・中学校の職場体験。介護福祉士の実習製など積極的に受け入れ 関わるなかで認知症の人の理解を深めて頂けるよう 取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では 行事への取組みを報告するとともに 参加者全員からの質問・意見・アドバイスなどを大切に受け止める その場で話し合いながら実践へと繋げるよう努力している。	2ヶ月に1回開催し、家族・利用者や民生委員・行政関係者などが参加し、具体的な課題について話し合っている。外部評価についても、検証し、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ほほえみ便り・行事ごとの案内など 市・社会福祉協議会・民生委員に配布し グループホームでの生活を見て頂くとともに アドバイスを頂くことができるよう 働きかけている。	市より、「安心介護パートナー」の事業委託を受けている。市とは、利用者の家族関係や困難事例などを率直に相談できる体制を維持している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内研修において 身近で起こっている実際の身体拘束の実情を勉強したり ありうる身体拘束を学んでいる。玄関・フロアの施錠は外しておりベルをつけているが 利用者は 自由に出入りが可能である。	ホーム内外の研修で、定期的に、繰り返し学ぶことにより、職員全員が、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内研修において 身近で起こっている実際の虐待の実情を学び ありうる虐待について話しあっている。また どんな小さなことも 自分自身に置き換え考えることで 意識ができています		

岐阜県 ほほえみグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム外研修へ参加するとともに ホーム内研修において理解を深めている。1階の利用者は活用したことはないが 家族からの相談があり 実際に必要となれば活用できるよう支援したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は利用者・家族の気持ちに寄り添うことを第一に考えながら 説明している。特に看取りの同意書については 母体の医療施設が日常的に積極的に関わっていることを説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者へのアンケートを実施し 利用者の思いを汲み取ることで ケアに繋げている。また家族の面会時には 積極的にコミュニケーションをとる中で 意見を聞き 情報の共有に努め 必要があれば 会議で話し合い ケアに繋げている。	事業所独自のアンケートを利用者に行っている。職員の顔と名前を覚えたいなどの意見があり、改善している。家族からは、面会時の会話で意見を聞き取って、それらを運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は個々に話し合う機会を設けるなど積極的に意見を取り入れている。また 管理者は 日常的に職員が意見を表しやすい 雰囲気作りをしている。	代表者・管理者は、定期的に職員から意見を聞いている。職員の提案により喫茶コーナーを設置している。設備やケアの改善提案や意見等は、全体会議で検討し、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個々に話し合う機会を設ける中で職員個々の 業務上の悩みなどを把握している。また 悩みが解決するよう 解決策などを 積極的に提案し解決へと 導いてくれる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修には 積極的に出かけている。研修内容について 毎月のケア会議にて報告し 全職員にて実践へと繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜県グループホーム協議会など会議への参加や 研修などを通し学んだことを 月1回のケア会議にて共有するとともに ケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談時に 家族より ご本人の習慣・職歴など生活状態を把握し ご本人の不安を少しでも軽減できるよう 職員間で情報の共有をしながら良い関係作りへと繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談時 家族が安心できるよう見学をして頂きながら 困っていること 不安なことなど どんなことでも話し合うことが できるような関係を 築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始時には 短期間利用などのサービスを導入し 可能な限り柔軟な対応を行いご本人と家族が納得できるような支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とご本人が1つの家族とすることができるよう 料理・裁縫・昔話など 分からない事は 教えてもらいながら 一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時 家族との時間を大切に過ごして頂けるよう時には 話の橋渡しをしている。また 日常生活の中での 気付きや出来事などを伝えることで 家族の思いを汲み取ることができる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行き付けの美容院に 定期的に出掛けている人 また 友人との時間を大切にしている人など 関係の継続へと 支援している。	家族や地域の顔なじみなどの訪問も多い。知人の来訪時には、個室でゆったりと過ごせるように配慮している。行きつけの美容室、喫茶店、買い物等に家族と協力し、継続して出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方・合わない方がいるが 日常的に会話をもちながら 職員が間に入るなど工夫している。また 日々の利用者の様子に注意し情報を共有しながら よい関係を築くことができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても 生活環境支援の内容など 情報提供をしながら 連携を心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いは 常に問うよう心がけ 月1回のケア会議や毎日の申し送り時に 職員間で確認し合うとともに ケアへとつなげている。	意思疎通が難しい人には、意図的に言葉かけを増やし、表情や仕草から意向や思いの把握に努めている。利用者対象の簡単なアンケートも暮らし方に活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族との会話の中で 馴染みの関係を築きながら 情報の収集に努め 月1回のケア会議や日々の申し送り時に話し合い 情報を共有しながらケアへとつなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録・申し送り表などで 一日の過ごし方や心身の状態を把握するとともに 当日の勤務者からの情報収集に努め 共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時には 日頃の様子を伝え 意見やアイデアを頂いている。また ご本人の思いを大切に介護計画を ケアマネージャーを中心に 全職員で作成している。	本人・家族や関係者の意見を取り入れ、介護計画を作成している。モニタリングやアセスメントを繰り返し、本人・家族の思いをや意向を、計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体状況・気づきなどを 申し送るとともに 介護記録や連絡帳に記載し 月1回のケア会議にて話し合い 情報の共有に努めながら 介護計画の随時 見直しへと 繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者・家族の状況に応じ 通院の送迎を支援している。		

岐阜県 ほほえみグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏祭り・作品展・運動会・民踊など 地域の行事に出かけるなど 住み慣れた地域への思いを大切にできるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・家族が希望する医療機関に受診している。身体状況によって 訪問診療をお願いしたり 情報の提供・職員の同行など かかりつけ医との連携に努めている。	かかりつけ医への受診は、家族の同行を基本としている。協力医への受診は、距離も近く、職員が同行している。医療機関との情報交換などは、緊密に行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体が医療施設であるため どんな些細なことでも看護師に伝え相談し アドバイスを頂き体調によっては受診・訪問して頂いたり 体調管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医療機関があり 入院先の担当医・支援相談員との連絡を密に取りながら 早期退院に結びつけている。また 母体の医療機関の医師を通じ 情報交換をしながら 病院関係者との連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針において利用者・家族の思いを聞かせて頂き 信頼関係を築きながら チームケアに取り組んでいる。重度化した場合は母体の医療施設の医師とも相談し ケアのあり方について 家族と相談をしながら よりよいケアへと 繋げている。	指針に従い利用開始時に、利用者と家族に対して、重度化などに関する説明と書面での確認を行っている。終末期には、家族や関係者で話し合い、チームで取り組む体制を取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内研修にて 緊急時対応について勉強するとともに 定期的に 学ぶことができるよう 研修に出掛けている。また 緊急時のマニュアルを見やすい所に置き 常に 確認できるよう 心がけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て 避難・消火・通報訓練を定期的に行っている。また 地震・水害時の対応についても 指導を受けている。緊急時には近隣の方の了解を得て 連絡網に掲載し 協力体制作りをしている。	地域の企業などとの協力体制も整い、緊急連絡網にも記載されている。また、2階からの緊急避難用滑り台も設置されており、消防署の協力で、利用者も参加して訓練を行った。訓練結果の検証も適正に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し その時の表情や様子から ご本人の思いを汲み取り さりげない声掛けやさりげないケアを心がけている。	一人ひとりの個性を尊重し、誇りを損ねない言葉かけを心がけている。そのために、これまでに培った、生活歴や職業歴を把握し、心のよりどころを見つけ、安心感が持てるように対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望などを 日々の生活のなかで把握しながら 全職員で共有し 自己決定がしやすくなるような言葉かけへとつなげている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の思いを大切にし その日の体調に合わせ 様子を見ながら 個別性のある生活を 行っている。できる限りは ご本人ペースに合わせるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の馴染みの美容院へ出かけたり 更衣時はご本人に衣類を選んで頂けるような声掛けを行っている。また 色を選んで頂き口紅をさしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話の中で 一人ひとりの好みの食材を把握することで 食事が楽しいものとなるよう工夫している。また 盛り付けや配膳 食器の片付けなどを 一緒に行う中で 食事への思いを聞くことができる。	食事を楽しむことは、買い物から始まっており、その日のチラシなどで、食べたいものに印を付けてもらい、希望を聞いている。利用者の好みを優先した献立である。口腔体操も実施し、食べることの大切さを支えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の把握や体重の管理をするとともに ご飯の大盛りの方・少しの方・粥の方・とろみやソフト食など ご本人の体調を考えながら支援している。また 食材によって 刻みを希望されることもあり その都度 ご本人と相談しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後 口腔ケアの声掛けを行い 可能な限り自分で磨いて頂き 磨き残し口腔内の残渣物などを確認し支援している。		

岐阜県 ほほえみグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄チェックを行い 排泄パターンを把握することで 失敗がないよう声かけや誘導を行っている。また 失敗をされてもさりげなく 介助をしている。	排泄は、できる限りトイレで行うように支援している。全介助の利用者も、昼間は2名の職員で、トイレでの排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄の管理をする中で 水分の補給に努めるとともに朝一番の牛乳など 便秘の予防へとつなげている。また 散歩やおなかのマッサージなどを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりのタイミングに合わせて 早く入りたい方・ゆっくりと最後に入りたい方など できる限り希望に沿った支援をしている。また 入浴剤を選んで頂き 入浴を楽しむことができるよう 工夫している。	隔日の入浴を基本としているが、状況に合わせて柔軟に対応もしている。リフトなどの用意もあるが、機械より人の手のぬくもりを大切にしている。シャワー浴のみの利用者には、浴槽へ促すことを検討している。	体を清潔に保つ目的だけでなく、「入浴を楽しむための支援」についても、無理の無い範囲で、長期計画等で、さらなる検討を期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の睡眠時間を管理し 夜間への安眠へと繋げている。時として 不眠であった日は 日中に少しでも 体を休めて頂くよう 声をかけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの既往歴や薬について ファイルにまとめてあり 職員がいつでも見られるようにしている。また 体調に応じ 看護師への連絡・相談をし体調管理を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で 出来ること・出来ないことの把握をしており 出来ないことに対し 職員がフォローするなど 喜びに変える努力をしている。また 様々なレクリエーションを用意し好きな事へ参加・好きな事を見つけて頂く努力をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候・体調を考えながら 散歩に出かけている。また 地域の行事への参加や家族会など 戸外に出掛ける行事を常に行っている。	玄関脇のベンチで、気軽に外気浴を行ったり、コースを変え、近くを散歩している。季節の変化にあわせて梅の花見や喫茶店などへもかけている。家族会の協力を得て、犬山城や昭和村などに日帰り旅行を実施している。	



岐阜県 ほほえみグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や外出時には 財布を持って頂き 直接支払って頂くよう 見守りながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の際は 他者に配慮しながら使用して頂いている。また 家族・友人への手紙は 自由にやりとりができるよう 支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレなど 使用後は汚れていないか確認し 清潔であることを第一に考え いつでも気持ちよく使用して頂けるように努めている。また 季節を感じて頂けるよう 玄関先の花壇の花の植え替えなど 利用者とともに 行っている。	玄関脇にある花壇の手入れされた草花が、季節感を添えている。リビングの窓は、大きな掃き出し窓で、開放感がある。浴室の脱衣場には、十分な広さがあり、ベンチや暖房器具を設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファで テレビを見ながら過ごす方・ご本人のテーブル席で過ごす方など 思い思いに過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた 使い慣れた物を持って来て頂くとともに 好きな写真やご本人が作られた物など 家族と相談しながら 居心地のいい部屋へと工夫している。	居室には、ベッド・洗面台・大きな押し入れが用意され、ゆとりある広さが確保されている。椅子・タンス・テレビや家族の写真など、利用者のなじみの品を自由に持ち込んでもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりができる限り自立した生活が送れるよう 衣類やリハビリパンツなど 取り出しやすい工夫をしている。また 状況に応じ 職員と利用者が相談しながら改善へと取り組んでいる。		

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2173100351		
法人名	医療法人 純真会		
事業所名	ほほえみグループホーム (2階)		
所在地	可児市下恵土野林3005番地		
自己評価作成日	平成24年8月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(2階)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケア会議、申し送り等、その都度ケアについて話し合い、理念を共有する意義を確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や、買い物時など、地域の方や、登下校時の小学生に声を掛けられ、挨拶や、会話を交わしている。施設行事、公民館祭り等、参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の小、中学生の福祉体験や、職場体験などの受け入れや、幼稚園児の訪問もあり、交流を通して認知症の方への理解を深めて頂けるよう、取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者や、家族にも参加して頂き、率直な意見やアドバイスを意見交流し、検討事項は、早急に話し合い、報告書としてまとめ、議事録も公開しサービス向上に、努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	「ほほえみだより」や通信を市の関係者(社協、民生委員)にお届けし、行事のある時は、案内をお配りし、伝えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関、二階出入り口は日中、開錠しドアに鈴をつけ、出入りの確認を行っています。会議にて、話し合いをしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内、外の研修を受け、会議で報告し、話し合い、確認している。		

岐阜県 ほほえみグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について、定期的な研修や、会議にて話し合う場を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所の考え方や、取り組みを説明し、理解された上で、同意を頂き、改訂時は、通知の上、口頭にて説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、職員に気軽に話して頂けるよう努めている。意見箱を設置し、アンケートを郵送し意見、要望等、聞けるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議以外でも、日頃から、職員一人一人と話をし、意見等あれば、それをくみ取っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員と話す機会を設けており、研修の参加など、個人のキャリアアップの為に、働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内、外の研修参加の機会が設けられており、参加後は、会議内で報告し、他の職員も学んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の連合会、県の協議会などの、会議や研修に参加し交流をもっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関係機関や、ご家族様から事前に情報提供を頂き、事前面接などで、ご本人とも話し合いを大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学をして頂き、今の生活環境も大切にしつつ、今後の生活について不安や、要望等、話して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、ご家族様の想いを取り入れ、不安なく過ごして頂けるような、プランを作成し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、出来る所は手伝って頂き、そこで利用者様から、色々教えて頂く事もあり、良い関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会、行事への参加する機会を設けたり、通院、美容院への、付き添い等願っている。面会時には、日頃の様子など、お伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別外出や、買い物等で馴染みの場所にでかけ、楽しんで頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、関わられるよう職員が、間に入ることにより、会話を楽しまれます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	情報提供を行い、不安や、混乱が生じないように、サービス提供者との連携を、心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話のなかで、望まれることを把握するよう、努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話の中で、情報収集し、記録に残し職員間で、情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り表、介護記録などで、一日の過ごし方、心身状態を職員全員が把握し、理解するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成にあたり、ご家族様に想いを記入して頂き、会議で十分話し合い、現状に変化があれば、すぐに見直しをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り表、介護記録、連絡ノートを活用し、日々の変化をとらえ、話し合い、職員で情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、ご家族の状況に応じて、通院の送迎、物品購入や、受診時の同席など、支援を行っている。		

岐阜県 ほほえみグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	文化センター、公民館など地域の催し物、ボランティアの活用などを通じ、安全に配慮しつつ地域の方とのふれあう機会を、設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望される、かかりつけ医に受診して頂き、適切な医療を受けられるよう、情報提供などしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に、訪問看護を受けており、体調管理や異変があれば、連絡を取り指示をうけている。院長にも、すぐに連絡が取れる連携体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者、ご家族と話し合いをもち、早期退院に向けて、連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様の希望を伺い、事業所で出来ることを支援、説明をしている。院長の指示も受けつつ、相談し取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署指導による、救命救急講習や、ホーム内研修にて、定期的に勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の訓練と、自主訓練を行っている。近隣の方にも、緊急時の応援をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの、利用者様の気持ち、想いを大切に、各個人に合わせた声かけ、対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に常に声をかけ、寄り添い、言葉や表情などから、思いや、希望に気付くよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や、気分をくみ取り、その方の望みに合わせた支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族様の協力のもと、なじみの美容院へ行く。服装も好みの物を、用意して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じることでできる食材や、献立を工夫し、野菜を切る、盛りつけなどその人に合った出来ることを、一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	減塩、刻み食など、体調に合わせて、食べやすさに気をつけている。水分補給は、随時行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ずつ口腔ケアの声をかけ、義歯の洗浄をしている。		



岐阜県 ほほえみグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄をその都度チェックし、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導などをして、トイレでの排泄を心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バナナジュースや、牛乳を飲用して頂いたり、水分補給、運動など行い、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人様の望みを優先し、日時、入浴順など決めている。リラックスして入浴して頂けるよう心がけている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転が生じないよう、日中活動的に楽しく過ごして頂けるよう、レク、体操など安眠につながるよう、努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個別のファイルにて保管し、いつでも見られる状態にしてあり、薬の変更があれば、申し送りでも伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの好みに合わせ、声かけをし外出、散歩、家事仕事など、能力に応じた役割を担当して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々、散歩などで外の空気や、季節を感じて頂き、家族会での遠出や、個別外出など計画し実行している。		

岐阜県 ほほえみグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と相談し、ご自分でお金を一部所持し、散歩時に買い物を楽しんで頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状、暑中見舞いなど、ご自身にて書いて頂けるよう、支援している。電話も、望まれる時にかけて頂けるよう、努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆様が集まる居間などは、季節の作品を利用者様と作って展示したり、廊下へお写真なども掲示して、楽しんで頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファや、畳のスペースで気の合う方と、談笑されるなど、思い思いの場でくつろいで頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持参された馴染みの物や、家具、思い出の品などを飾ったり、安全にも十分に気をつけ、心地よい空間を作っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活動線を考え、転倒のリスクがないか、常に把握し手すりや、コールなど活用し、安全かつ自立した生活が送れるよう工夫している。		